趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2024年7月号

ごあいさつ

暑い日が続きます。一気に夏のエンジン全開で、寝苦しい夜が増えてきました。こんな時は体の休息と栄養の補給を心がけて、夏バテを防止しなければいけませんね。花火大会や夏祭りなど浴衣でお出かけする場面もふえてくるので、気を付けてお出かけください。

８月の連休　　**毎週火曜日・水曜日定休**

12日（月）13日（火）14日（水）

※まだまだ水曜日休みが定着しておらず、ご迷惑をおかけしております。

特集　読谷山の織物の魅力

15世紀の琉球は、中国や東南アジア諸国との交易が盛んで、多くの交易品と共に、読谷山花織のルーツとなる絣や浮織の技法も伝来しました。伝来した技法を元に琉球王府時代には読谷山花織として独自に織られ、受け継がれてきました。しかし、その染織技術は明治時代の中頃から時代の波に押され衰退しつつあり、沖縄戦争後は人々の記憶からすっかり忘れ去られ、「幻の花織」となっていました。

このような約600年の歴史を誇る読谷山花織は、絶滅寸前となっていましたが、1964年に読谷村の情熱ある有志によって約90年ぶりに「幻の花織」が復活しました。読谷山花織・読谷山ミンサーは、紋（もん）織物の一種です。読谷山花織は絹糸や綿糸で、染料は福木（ふくぎ）、車輪梅（しゃりんばい）、琉球藍などの植物染料を主に用いています。

ミンサーの『ミン』は綿、『サー』は幅の狭い織物という意味があり、女性から男性に贈り物として贈っていたそうです。ロマンチックですね。現在では半巾帯として織られることが多く、竺仙などの上質な浴衣など夏の装いとして、親しまれています。

新入荷商品のご紹介

読谷山ミンサー織　半巾帯　８８０００円

竺仙などの伝統的な浴衣に上質な手織りの読谷山ミンサーのコーディネイトはこの夏のベストセレクションです。

印伝　みその　財布

２３６５０円

あじさいが彩る初夏の美しい花園をイメージした『みその』シリーズ。あじさんのもつ家族や団らんの花言葉を小さな花が集まっている様子で表現しています。

鎌倉彫　下駄

１６５１０円

荒々しくほられた麻の葉の文様が味わい深い鎌倉彫の魅力を表現しています。小千谷の鼻緒と合わせて暑い夏にさわやかな涼を生みます。

水うちわ　花筏

９９００円

鮮やかな色合いの中に一筋の涼を感じさせる逸品。玄関先など大切な人を招くインテリアとしてセンスを感じさせる逸品です。

SNSで情報発信中！

かわちやの新着商品や産地のこと
ものづくりの話、竹次郎カフェの
開催日などSNSでも発信しています。

フェイスブック　kawachiya888

インスタグラム　kachuan888

呉服の河内屋
〒444-0521
愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子62
https://www.gofuku-kawachiya.co.jp
メール　info@gofuku-kawachiya.co.jp
tel 0563-35-0039　fax 0563-35-3539